

8月23日(月曜日)

ドル/円

## 日銀の金融緩和期待が遠のく

### 20日(金)の主な推移

チャート: 30分足 20日(金)朝6時 ~ 21日(土)朝6時

NYダウ平均

10213.62ドル  
(-57.59ドル)

米長期金利  
(10年債利回り)

2.6142%  
(+0.0392%)

NY原油先物

73.46ドル  
(-0.97ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所:外為どっとコム

①

前日のNYダウ平均が140ドル超の下落となり、日経平均株価の下げが連想されると、クロス円を中心にリスク回避の動きが広がり、ドル/円も85.19円まで連れて下げた。だがその後ゴトー(5・10)日要因によるドル買い需要に加え、日本株が下げ渋ったことを手掛かりにドル/円は反発した。

②

昨日に続き「日銀が臨時の金融政策決定会合を開催する」との噂が流れ、野田財務相からの「日銀と緊密な連携をとっていきたい」「(為替問題で)G7各国とコミュニケーションしている」との発言も手掛かりとなり、ドル/円は85.44円まで上昇した。だがその前に仙石官房長官が「菅首相と白川日銀総裁の会談について具体的なことは知らない」と述べており、その後野田財務相から「菅首相と白川日銀総裁の会談について、具体的なことは知らない」との発言が出たことも加わり、政府や日銀に対する円高対応策への期待感が後退したことで、ドル/円は値を下げた。

③

欧州時間序盤にウェーバー独連銀総裁が「欧州中銀(ECB)による年末まで無制限の流動性供給は年末以降も維持されるべき」と発言した。これにより市場ではECBの金融緩和策が長期化するとの思惑からユーロを売ってドルを買い戻す動きが強まり、このドル買いに連れてドル/円は24時過ぎには85.82円まで上昇した。

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

## 本日の見通し

本日の予想レンジ: 84.90— 86.10円

本日は米国にて30年債の入札が予定されている。先週末に続き主だった経済指標の発表も予定されておらず、主要国の株価や米国債利回りなどと共に材料視されそうである。

先週後半は政府と日銀による円高対策についての会談への思惑が出たものの、先週末に大手通信社からは「菅首相と白川日銀総裁の週明けの会談を先送りする方向で検討に入った」と伝えられたことや、民主党代表選挙9月14日に予定されていることから、今回の会談について先送りムードが漂っている。結果的に円高対策がなされない場合、株価の下落によりリスク回避のクロス円売りが強まり、ドル/円も下げる展開が予想されるため、日経平均株価の9000円の大台割れを巡る攻防には注意したい。

またドル/円が年初来安値を更新する場面では、政府・日銀に対する金融緩和への催促が強まることが予想され、政府や日銀が円高けん制発言を強めるか、そして日銀が9月6～7日の日銀金融政策決定会合前に臨時会合を開催するのか、などが注目されよう。(川畑)

## 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/23(月)	26:00	○	(米) 30年債入札(70億ドル)	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com